

PTA運営について

どのような困りごとがありますか？

- 旗持ち当番になっているのも関わらず対応しない家庭がある。
- 任意団体ゆえ、強制力持たせられず苦慮している学校がある。
- 児童数が減少しているにも関わらず、PTA事業数が変わらない。事業を減らすにしても労力必要で大変。
- 本当は特別会費のお願いをしたいときにも反発があり、代わりに寄付のお願いをするにしても、任意なのではないのか？と消極的に問われることがあり、運営側としてはなかなか苦労する。



個人情報保護法の対応

各校PTA個人情報の取り扱いとは？

- 規定済の学校と未実施の学校と半々だった。
- 現時点では問題になるケースはないものの、規定を設ける必要性は認識。
- 役員選出の場合に名簿を使用する際に特に注意すべきだとの意見があった。
- 規定済の学校と未実施の学校と半々だった。
- 現時点では問題になるケースはないものの、規定を設ける必要性は認識。
- 役員選出の場合に名簿を使用する際に特に注意すべきだとの意見があった。





情報交換会 1

PTA運営

役員選出

個人情報保護法の対応

役員選出

学校により役員選出方法が異なることが分かり、各校で課題を共有しました

- 現体制役員の本釣りの学校が多いところ、ある学校では役員は2年単位とし、1年目は副委員長若しくは副会長、2年目は委員長、会長と絶えず半分の役員が入れ替わる仕組みを持っている学校があったことには驚いた。
- どの学校も次の役員決めに苦慮している実態浮き彫りに。
- 各学校歴史が異なりそのものを実践するのは難しいとしても、他校の動向を知れる今回のような機会は非常に有難いと感じた。
- 入学時に、いつ（何年）なら役員を担うことが可能か？というアンケートを行い、各家庭の事情を踏まえて役員をお願いできるような運用をしている。
- 役員に負担がかからないように、また、誰でも会長職が務まるように事業の見直しを行っている。
- 皆さん仕事を抱えている、また、町内やその他也受けていることが多く、新役員を集めにくい状況。結局役員がひとりずつ連れてくる、いなければ自分が継続している感じ。やはり役員負担を減らしていけないといけない。
- 委員会を12月に立ち上げている。委員長、副委員長から会長、副会長の人事を行っている。最長5年のルールがある。PTA会長以外にも地域の役が付いてくる（公民館や町内等）のが負担になっている。地域との連携は大切だが見直しが必要だと思う。
- 同じ人が何年も継続していることが多い。役員継続の意思確認を10月ごろに行っており、その後に役員募集の案内を出している。
- 副会長⇒会長の流れで決めている。新興住宅街が多く、地域のつながりが無いので人が集まりにくい。
- 会長は3地区の輪番制にしている（各地区2年交代）1月に役員選出委員会を立ち上げ、会長、副会長の立候補を受け付けている。その後執行部の募集を行う。同じく、人が集まらないので、継続している役員も多く一本釣りになっている。



- 役員は大変だというイメージを変えていかなければいけない。
- コミュニティーを広げるためにも新しい役員を入れていきたい。
- 役員負担を減らし誰でもできる会長、役員にしていきたい。
- 人に頼むのが苦手なので結局自分が継続している。
- 在学中に必ず1回は役員か学級委員を受ける規則を設けているのは参考になった。
- 地区の輪番制は参考になった。

PTA収益活動について

どのような収益活動がありますか？

- ベルマーク集め(インクカートリッジ回収*1)
- アルミ缶回収
- バザー
- 資源回収
- 制服体操服回収・販売
- 文化祭・体育祭・区民大会での模擬店による収入
- 地区からの収入 (PTAOB会や地区からの寄付金)

*1)インクカートリッジ回収については下記を参照ください。ベルマーク教育助成財団のホームページより紹介しています。

収益はどのように活用していますか？

各部活活動費・学校用備品修繕にあてている。

問題点

- スーパー等での回収により新聞が減っており回収量が少なくなっている。
- バザーも無く収益が無い為、PTA会費の値上げを検討。
- 資源回収時の軽トラック手配が大。



使用済みカートリッジを回収すると、ベルマーク点数になります

エプソン、キヤノン、ブラザー製の使用済みインクカートリッジが5点、トナーカートリッジが50点になります。使用済みカートリッジは、各社の回収センターが自社の製品を無料で引き取ってくれます。返ってきた「ベルマーク点数証明書」を他のマークと同じように送り状に記入したうえで、財団に送ってください。

ベルマーク点数に換えるには、まず専用回収箱を請求してください

使用済みカートリッジの回収には「ベルマーク専用回収箱」が必要です。

まず、エプソン、キヤノン、ブラザーのベルマーク窓口に回収箱を請求してください。それが参加登録になります。回収箱がいっぱいになったら、回収を依頼してください。



情報交換会 2

P T A 収益活動 親子のつどい等

親子の集い等について

場所や日程、内容は？

場所は校内。

土日が多いで親子ふれあい活動がメイン。

平日は授業の一環。

土日開催の方が参加率が良い。

学校開催以外で開催する事もある。

問題点

親子さんに関心を持って頂けるような内容が必要。

夏休みの親子奉仕活動は出率30%程。

中学になると保護者の参加率が悪くなる。



平成30年度 福井市PTA研究大会

情報交換会3 広報紙

第40回全国小中学校PTA広報紙コンクール 文部科学大臣賞〈GOGOえんざん〉

福井市円山小学校PTA 横坂 浩一さんに 広報紙作りのポイントを教えてくださいました

「広報誌作りに効果的なポイント4」

1. PTA活動の様子が紙面にありますか？
学校行事は学校だよりでお知らせされるため、
広報紙で評価されるPTA活動記事の掲載を
お勧めします。
2. ワンランクアップの紙面作り
特集記事は、インターネットで検索する。
(マナー化対策)
3. 大きな見出しや写真がありますか？
集合写真は、連写してとる。いろいろな角度
から撮影する。
4. レイアウトに悩んだらどうする？
印刷会社と関わり、制作の方と話してアドバ
イスをもらう。
レイアウトは、雑誌や新聞を参考にする。
(見出しにインパクトを持たせる)



情報交換会3

広報紙



グループディスカッションより

広報紙発行の回数や時期は

- 年3回が多い。多い学校で4回。回数を減らしている傾向。
- 2回→学期ごと（前期・後期）
3回→入学後（新任・新入生紹介）・号外（体育祭・バザーなど）
3月（卒業生紹介）名前と顔を一致させて載せるか？
- 部会の回数 毎月1回・10回・5～6回・4回

情報集めに苦勞していること・工夫していること

- 保護者にアンケートをだす
- QRコードで音声の配信
- 配布対象が学校によって異なる。（児童家庭・生徒家庭・地域全体）
- 配布対象によって、内容がPTA広報・学校だよりと様々である。
- 親・祖父母は子供の様子、写真を楽しみにしている
- 変わったことをして、翌年が続けていけるか。
- 引継ぎの為にノート・データを残す。
- 写真は広報委員以外の保護者にも撮ってもらう。（イベントに委員が行くのが大変な為）
- 掲載NGの児童・生徒にはモザイク処理



平成30年度 福井市P T A 研究大会

情報交換会 4

見守り活動 地域との連携事業

見守り活動について<小学校>

【登校時の見守り】

- 育成会+見守り隊と協力して通学路で見守り
- 学校付近の横断歩道に先生が立っている
- 団地地区では当番制にして見守り
- 幼・1・2年の保護者と地区ボランティアの方が当番制で見守り
- 先生による見守り
- 家の玄関先で見守ってくれる方がいる
- 3世代同居が多いので祖父母の協力がある
- 保護者による旗持ち活動
- 年2回全児童の保護者当番制で、学校付近の横断歩道で見守り、指導
- 各校区で危険ポイントを決め、保護者が当番で見守り
- 月1回交通量の多い交差点に立ってあいさつ運動。
- 着脱可能なスピーカーを取り付けて「安全パトロール」



【下校時の見守り】

- 下校時の見守りはなし(児童クラブか保護者のお迎えあり)
- 先生がパトロール
- 下校ボランティア、地区の年配の方、保護者が付き添い
- 地域のお年寄りによる見守り活動
- 学校からバス停、バス停からそれぞれ分かれる地点で保護者お迎え
- 下校時に有線放送をかける



【問題点】

- 見守り当番を決めても参加が難しい(時間帯が厳しい・仕事がある)。
- 旗持ちを負担に思う人がいる。
- 地域のお年寄りの高齢化。
- 当番表を紛失してしまったり、当番を忘れて出ていない人がいる。
- 少子化で集団登校半が作りにくい。
- 下校時に一人で長い距離を変える子どもがいる。
- 積雪時に雪が多くなった時のどの通学コースにするかが問題。
- ヘルメットの啓発活動。

見守り活動についてのまとめ

- 地元の方(主にお年寄りの方)の協力による見守り隊や当番制の旗持ちを行っているところが多く見られる。
- お年寄りの高齢化で協力者が増えていかない現状があったり、当番制なのに参加が無かったりして、その機能が十分に果たされていない事があり、見守り活動への不安がある。
- 安全マップの活用、校区の危険個所をチェックしマップに記している。これをより活用してもらうために、A4サイズの下敷きにそのマップをプリントした。それを新1年生に配布することを進めている。
- 家庭の中で日頃より、通学路の危険個所について話し合いの場を持ち、意識を高めることも重要である。
- 見守り活動で気をつける点は、車や不審者だけでなく、波やサル、クマなどの自然の猛威にも気を配らなければならない。

情報交換会 4

見守り活動 地域との連携事業



補導など〈中学校〉

- 見守り活動、夏休み期間4回(土曜日)
- 夏休みの8月に4回ほどスーパーやコンビニや公園で補導巡視
- 春休み・夏休みの地域巡回
- 春と秋の自転車点検

地域のイベントとの関わり

- 主に公民館と連携した活動が多いと思われる。それぞれの地域に密着した祭りやイベントがあり、それらに参加している。
- 活動の内容にマンネリ化が見られるとの意見がある。いかに地域の特色を活かした活動を行っていくかが課題となっている。

